

鎌倉市公共下水道経営戦略2026(素案)に対する意見内容と市の考え方

No.	該当ページ	意見内容	市の考え方
1	P44	受益者負担が必要であり、古い設備や配管の刷新が十分にでき、黒字経営ができるような料金に値上げしないと仕方ない。民間のように維持管理、事業継続を考えた経営をしてください。	<p>下水道は私たちの生活に欠かせない重要なインフラであり、市民の皆さまが安全で安心して暮らすためには、施設の老朽化対策や維持管理が欠かせません。設備の修繕や更新には、多額の費用が必要であり、こうした費用を賄うために適切な受益者負担が必要だと考えています。</p> <p>そのため、下水道使用料については、市民の生活への影響を考慮しつつ、公平かつ適正な料金設定ができるよう慎重に検討を進めています。令和3年(2021年)3月に策定した「鎌倉市公共下水道経営戦略」では、市民の負担感が過度とならないよう、令和5年(2023年)、令和8年(2026年)、令和11年(2029年)の3回に分けて段階的に料金改定を行う方針としました。「鎌倉市公共下水道経営戦略2026(素案)」でも、令和8年(2026年)、令和11年(2029年)、さらに令和16年(2034年)の料金改定を予定しています。</p> <p>下水道事業は、利益を追求する民間企業とは異なり、市民の皆さまへ長期にわたって安定したサービスを提供することを最優先しています。責任を持って公共サービスを運営してまいりますので、今後とも御理解と御協力をお願いいたします。</p>